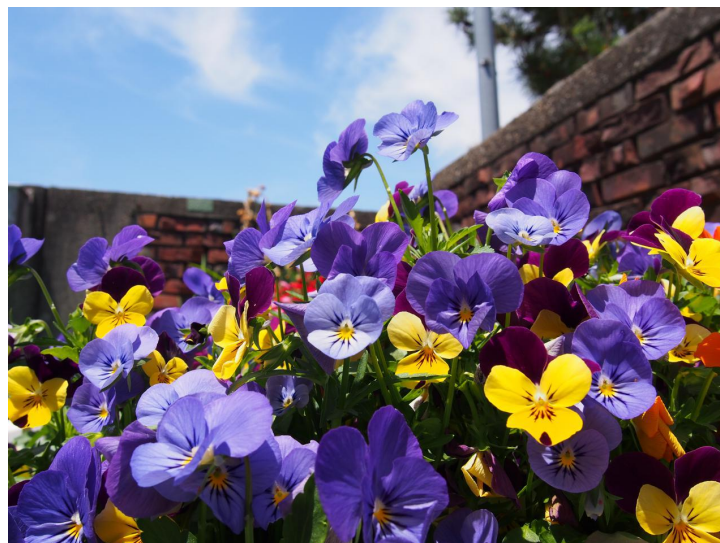


## 学校再開にむけて②

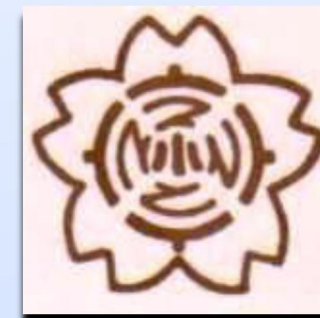
ようやく、子どもたちの声が学校にもどってきました。各クラス2グループに分けての形となりましたが、子どもたちも時間に合わせて元気に登校していました。私も初めて正門前に立ち、待ち構えていたところ、元気な声で、「おはようございます。」と言ってくれる子どもたち、中には、立ちどまって礼儀正しくあいさつをしてくれる子どもたちもいて、とても気持ちのいい朝を迎えることができました。あいさつは、コミュニケーションの大切な要素です。私自身も大きな声であいさつをしたいと思います。その後、各クラスにも顔を出してみました。子どもたちも初めての先生の前で、緊張気味で先生の指示を静かに待っている姿が印象的でした。これから登校を重ねていくことで、緊張感もとけ、少しずつ子どもたちひとりひとりの個性が見られたらと楽しみにしています。

また、子どもたちもマスク着用、手洗いの徹底など、今までの学校生活とは少し異なり戸惑いも感じているかもしれません。ただ、様子を見てみると、丁寧に手洗いをしたり、できるだけ触れ合わないよう心がけたり、今までご家庭で心がけていたものを実践してくれているようです。

そもそも学校校現場は、3密の状態になることが常でした。今この制約の中でどのように学校生活を戻していくか、学校だけではなく社会全体で考えていかなければなりません。大阪は、感染者の方もかなり減り、大阪府が示した指標もクリアできています。「気の緩み」が危ないとよく言われていますが、学校としても細心の注意をはかりながら、学校を運営していきます。



## 学校探訪



新しい学校に赴任した時に、最初に確認することがあります。それは、「校章」です。校章は、その学校の思いや理念を図案化したものです。学校設立に関わった方々（学校現場だけではなく、児童、保護者、地域の方）の思いをひとつにしたものです。そこで、本校の記念誌を読みると、校章の図案ができた由来が書かれていました。校章にこめられた思いがよくわかりました。

### 校章の由来

～児童の夢をたくし、理想像を求めて～

初代校長榎原先生の創案に基づき、昭和40年7月1日制定される。

### 中央

小学生、更には、小学校の“小”を片仮名の“マ”四文字、その外枠に同じく“ト”の四文字を図案化して囲み、いにしえから小学生に馴染み深い桜の花弁で包含したものである。

“マ”の四個は、島田の“島”を外枠の“ト”の四個は豊中の“豊”の音をもじり、中央の“小”と合わせて、豊中島田小を意味している。

所属を掲げると共に、学校愛、郷土愛を円形は円満、協調、和合を表示したものである。

桜の花弁は、児童の成長を、すなわち、清廉、潔白、澆刺が願望され、学びの道を指向している。

島田小学校 記念誌より

